

# 理念 Ⅲ 安心して暮らせる 生活基盤の確保とまちづくり

総力戦のまちづくり「奥出雲創生」  
つながりで築く 幸せと笑顔あふれるまち 奥出雲町



OKU  
IZUMO  
Plan for the future

- 基本目標 ⑪ 暮らしと命が守られるまち
- 基本目標 ⑫ 暮らしやすく自然にやさしいまち
- 基本目標 ⑬ 持続可能なコミュニティがあるまち

# 暮らしと命が守られるまち(1)



## 施策を取り巻く社会情勢

急速に進行する道路ストック等の老朽化などの社会的背景を踏まえ、安心して安全な活力ある地域づくりの実現のため、関係機関と連携を取りながら道路整備の一層の効果的・効率的な実施に向け取り組んでいくことが重要です。

また、過去に整備された多くの施設が、今後、更新時期を迎える一方で、地方公共団体の財政は依然として厳しい状況にあります。公共施設の更新・統廃合・長寿命化を計画的に行い、財政負担の軽減・平準化を進めることが求められています。

## 奥出雲町の状況 (現状と課題)

- ◆本町の道路網は、国道、主要地方道を幹線とし、これに接続する生活道路としての町道で形成されています。歩行者の安全対策や冬期間の交通確保のため、計画的な整備が必要です。
- ◆町道の維持管理については、道路ストック等の老朽化への対応が求められています。また、積雪時の対応など様々な住民のニーズに応えていく必要があります。
- ◆上下水道は、施設の老朽化に対応しつつ、施設更新費の平準化等を図り、計画的な給水体制の確立とより健全な財政運営が必要となります。
- ◆本町の人口1人当たりの公共施設延床面積は、全国平均と比べ大きく、一般的に大規模改修が必要と言われる規模の大きな公共施設は、今後20年間で8割を超えると試算されています。
- ◆耐震化対策とともに計画的な維持・更新を進めていく必要があります。

## 10年後のめざす姿

安全で快適な暮らしを支える上下水道・道路が適切に整備・維持管理されるとともに、施設規模の最適化や計画的な維持管理、長寿命化により持続可能な財政運営が行われているまち

### まちづくりの目標

KGI (Key Goal Indicator / 重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
水洗化率	86.6%	93%	98.9%
町道の改良率	61.8%	61.9%	62.1%
公共施設総量の削減	261施設	251施設	241施設
個別施設毎の長寿命化計画の策定数	1件	5件	10件

### 関連計画

奥出雲町国土強靱化計画	令和2年度～令和7年度
奥出雲町公共施設等総合管理計画	平成29年度～令和38年度

## 取組

### (1) 道路の新設・改良・維持管理

町道の新設改良については、災害時などの迂回路や防災拠点の状況等、道路の重要度を把握し、広域的視点で優先順位の高いところから、重点的・計画的に整備を進めます。関係機関へ早期整備に向けての要望活動を継続的にを行います。道路ストックの老朽化対策、斜面などの危険箇所対策等を優先度の高い箇所から実施します。また、豪雪等の異常気象時に備え、除雪車両の充実や除雪体制の確保、強化を図ります。

KPI (Key Performance Indicator / 重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
道路橋メンテナンス率	34.1%	68.3%	100%

### (2) 上水道の改良・維持管理

安心・安全な水道水の安定供給のため、水源の確保や改良について、計画的に老朽施設の更新・改良及び老朽管の更新に努め、災害に強い水道施設を目指します。また、恒常的な点検を行い供給水の質的水準の向上や水源の水質保全対策を推進します。

KPI (Key Performance Indicator / 重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
上水道の老朽管路の割合	3.7%	14.9%	12.5%

### (3) 下水道の改良・維持管理

集合処理区域外は合併処理浄化槽により整備を進め、公共用水域の水質保全を図ります。また、継続可能な下水道事業のため、老朽化施設の計画的改修による経費の平準化、適正な料金体系の見直し、横田地区集合処理区域の統廃合により施設管理費の軽減、公営企業会計への移行等効率的な運営に努めます。

KPI (Key Performance Indicator / 重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
水洗化率に関する普及啓発活動回数/年	1回	1回	1回

### (4) 公共施設の有効活用

公共施設におけるサービスの必要性を再検討したうえで、機能の集約化・複合化や他用途への転用など使用形態・利用形態の見直しを行い、施設の最適配置を進めます。

地域住民にとって身近な公共施設である学校施設の跡地活用方法については、地域の拠点施設としての利用を基本方針としつつも、地域特性に応じた様々な用途を想定し、有効な活用方法を地域住民とともに検討していきます。

また、町の公共施設等総合管理計画を基にした長期的・計画的な施設の維持管理、長寿命化を行い、財政負担の軽減、平準化を進めます。

KPI (Key Performance Indicator / 重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
利用方法を見直した施設数	0施設	10施設	20施設

### (5) 公共施設の耐震化・防災拠点の整備

旧耐震基準による施設については、機能の集約や有効利用を検討したうえで、計画的な耐震化を進めます。防災拠点となる庁舎、避難所となる施設は、地域防災計画を踏まえ、耐震性に加え、発電設備や給水設備などの災害対策機能の強化を図ります。

KPI (Key Performance Indicator / 重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
耐震化率(新耐震基準)	80%	90%	100%

みんなが協力できること

- 町民・地域
  - ◆町道沿線の草刈り・陰切りなどの協働作業をする
  - ◆上下水道を適正に使用する
  - ◆遊休施設等の有効活用のための提案・提言をする
- 企業・団体
  - ◆除雪や道路維持の連携体制を整える
  - ◆行政と連携した遊休施設等の活用を検討する

# 暮らしと命が守られるまち(2)



## 施策を取り巻く社会情勢

近年、激甚化する自然災害に対応するためには、ハード、ソフトの両面において防災・減災対策を進める必要があります。

また、災害時には、自分自身の命は自分で守る「自助」、地域コミュニティで力を合わせて対応する「共助」、公的機関行う「公助」の考えを啓発するとともに、その全てが連携し被害を最小限にとどめる社会をつくることが重要です。

また、犯罪や事故等においても、地域および地域活動団体や事業者と警察等関係機関が一体となって、安全で安心して暮らせる地域社会の実現に向けた取組を推進する必要があります。

### 奥出雲町の状況 (現状と課題)

- ◆本町では、大きな天災は近年起こっていませんが、令和2(2020)年3月に町内で1,044カ所の土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)が指定されたことにより、災害時の避難所が危険区域に存在していることが判明し、安全な避難所の確保と避難行動の確認が必要です。
- ◆地域防災の要である消防団員は、過疎化、少子高齢化の影響で年々減少傾向にあります。充実・強化に努めるとともに、奥出雲消防署との連携強化を計画的に進めていくことが必要です。
- ◆高齢者が関係する交通事故が増加傾向にあることから、高齢化率が進む本町としても、対策を講じる必要があります。
- ◆町内の刑法犯の認知件数は増加傾向にあり、継続的な広報啓発活動が必要です。
- ◆少子高齢化の進展により、高齢者の独り暮らしや高齢者世帯が増加し、依然として高齢者の特殊詐欺被害が後を絶たない状況にあります。

## 10年後のめざす姿

地域全体が一体となって、防災減災や犯罪や交通事故等の未然防止に向けた一体的な取組ができるまち

### まちづくりの目標

KGI (Key Goal Indicator/重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
自主防災組織数(構成自治会数)	2組織	7組織	12組織
刑法犯認知件数	23件	15件	12件
人身交通事故件数	8件	6件	4件

### 関連計画

奥出雲町地域防災計画	(毎年改訂)
奥出雲町犯罪のない安全で安心なまちづくり推進計画	平成30年度～令和4年度
第10次奥出雲町交通安全計画	平成28年度～令和2年度

## 取組

### (1) 防災活動の推進・防災組織・体制の充実

防災訓練の充実を図るため、学校、公民館、自治会等を単位とした研修会を開催します。さらに、土砂災害ハザードマップの活用や防災行政無線の伝搬範囲の拡大を図るとともに、伝達手段の多重化・多様化を図り、迅速で的確な防災情報を発信します。

また、消防本部、関係団体等と協力して啓発活動の実施と組織の活動を支援し、育成強化を図ります。あわせて、奥出雲町防災士育成事業を活用し、防災士の資格取得を支援し、地域の防災力強化を図ります。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
防災研修会・訓練の実施	5回	10回	15回
防災士登録者	23人	73人	123人
防災無線設備	15基	37基	37基
防災無線受信機各戸配布率	0%	100%	100%

### (2) 災害復旧活動・災害弱者支援体制

災害が発生した場合に、被災を最小限にとどめつつ、ライフラインの早期復旧を可能にするため、「奥出雲町国土強靱化地域計画」に基づき体制を強化します。

また、避難支援が必要な方を支援する仕組みづくりとして、避難行動要支援者に配慮した避難計画の策定、避難行動要支援者名簿を作成し、災害弱者への支援体制を強化します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
福祉避難所の指定	1カ所	10カ所	15カ所

### (3) 消防活動の充実

消防団員の活動の見直し、地域住民の理解促進による担い手の確保、機能別消防団員の活用による体制強化を図ります。さらに消防施設、設備・装備の一層の強化と高度化による省力化を推進します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
機能別消防団員数	10人	20人	30人

### (4) 町をあげての防犯体制の強化

「自分たちの地域は自分たちで守る」という防犯意識向上のための啓発を進めるとともに、地域における自主的な防犯活動の活性化やそれぞれの活動の連携を深めていくための取組を推進します。

また、防犯上配慮を要する者については、地域住民が連携して地域全体で子どもや高齢者等を見守る活動、被害防止等の取組を推進します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
防犯研修会の開催数・参加者数/年	0回(0人)	1回(20人)	2回(40人)

### (5) 交通安全意識の向上

地域活動団体や事業者と情報共有、連携を図り、子どもや高齢者の事故の未然防止を図るため、広報啓発活動を推進します。また、事故多発地点や危険箇所について、交通安全施設の整備を行うとともに、関係団体と連携を図り、交通安全意識と交通マナーの向上のための啓発活動を進めます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
交通安全に関する街頭啓発活動の回数/年	2回	2回	2回

### (6) 消費者自立支援の推進

被害リスクの高い高齢者等に未然にアプローチするため、構成機関において通常の活動の中でさりげなく見守り、異変があれば、情報交換・共有、協議が行える「地域見守りネットワーク」を構築します。また、消費者被害の未然防止や拡大防止のため、情報提供や普及啓発を進めます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
消費者被害防止のための研修会開催/年	0回	1回	2回

みんなが協力できること

- 町民・地域
  - ◆防災の意識を高め、危険な場所の確認、防災用品・食料の備蓄など「自分の命は自分で守る」ことに努める
  - ◆助け合い、譲り合いの心を常に持つ
- 企業・団体
  - ◆防災関連事業への積極的な参加に努める
  - ◆仕事中に変わったこと、気づいたことがあれば情報共有をする



施策を取り巻く社会情勢

時代の変化に伴い住宅ニーズは変化しており、税制上の優遇や低金利などが追い風となり、子育て世代（30～45歳）の年齢層で持ち家率が増加傾向にあります。

また、人口減少、生活様式の変化に伴い、ごみの排出量は減少傾向にあるものの、化石燃料から製造されるプラスチック製品（PE、PP等）は増加傾向にあり、環境資源の持続可能性が問われています。

政府は2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラルを目指すことを宣言しており、達成のためには、温室効果ガスの排出量の削減並びに吸収作用の保全及び強化をする必要があります。

奥出雲町の状況  
(現状と課題)

- ◆住民生活に欠かせない移動手段として公共交通機関の維持・存続は重要な課題であり、引き続きJR木次線の利用促進並びにバス路線の適正な維持が求められています。
- ◆国勢調査における本町の持ち家率は、増加傾向となっています。また、約1割の世帯は公営・民営賃貸住宅に居住しています。
- ◆公営住宅への入居希望はあるものの、施設の老朽化と入居要件により、結婚等を機に住宅への入居を希望されてもニーズに合わない、入居できない等の問題が発生しています。
- ◆住宅のマッチングが成立しないことを理由に転出する世帯が増加していることから、特に子育て世代の定住を促進する住環境整備への支援が求められています。
- ◆近年、増加している空き家について、適正な管理と除却が進んでいない状況にあり、所有者への意識啓発が必要となっています。
- ◆豊富に存在する森林資源の活用を目指して、平成26(2014)年に「奥出雲町バイオマス産業都市構想」を策定し、認定を受けています。

10年後のめざす姿

行政と民間が連携し、少子高齢化やライフスタイルの変化、多様化する住宅ニーズに適応した住宅や宅地の供給ができるまち  
脱炭素社会づくりに向けてゼロカーボンをめざすとともに、エネルギー地産地消の取組が推進されたまち

まちづくりの目標

KGI (Key Goal Indicator/重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
居住に供する新築・増改築物件数	21件	20件	20件
電力の地産地消率	62%	63%	65%

関連計画

奥出雲町公営住宅等長寿命化計画	平成31年度～令和10年度
奥出雲町空き家等対策計画	令和4年度～令和8年度
奥出雲町バイオマス産業都市構想	平成26年1月～令和6年1月

取組

(1) 安定した交通手段の維持

今後の学校再編計画や地域の道路改良の進捗状況を見据えながら、本町の地域公共交通の指針となる「地域公共交通計画（マスタープラン）」を策定します。

また、JR木次線は、生活利用に加え、沿線のシンボルであるトロッコ列車「奥出雲おろち号」が運行されており、JR西日本や周辺自治体とともに、更なる利用促進と観光振興に向けた取組を進めます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
公共交通事業者数	5社	5社	5社

(2) 魅力ある住まいの確保

子育て世代の定住を促進するために、子育て世帯を対象とした定住促進賃貸住宅の整備や宅地造成、ライフステージに応じた新築や増改築といった住宅環境整備を支援し、「住み続ける町」として選択して頂ける住宅環境整備支援に取り組みます。

また、本町が抱える問題解決、多様化するニーズに対応した民間賃貸住宅整備を促進するため、行政と民間の連携に必要な支援策に取り組みます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
住宅環境整備支援件数	48件	153件	258件
子育て世帯向け公営住宅の整備（再掲）	—	4戸	8戸
住宅用地の整備（再掲）	—	6区画	12区画

(3) 空き家の利活用と老朽危険空き家の除去

優良な空き家物件については、空き家バンク制度に登録頂き、入居希望者に対し賃貸借または売買を斡旋します。また、空き家の水回りなどの条件整備について、ニーズに対応した支援を行います。

一方で、特に危険を伴う住宅については、所有者に対し、適正な維持管理と除却を促し、周辺環境の整備に努めるとともに、整地された宅地については、空き家バンク制度により希望者に斡旋します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
空き家バンク契約成立件数/年	10件	10件	10件
老朽空き家除却件数	0件	3件	7件

(4) 循環型社会の構築

住民、事業所、団体、行政が協働し、3R（リデュース：発生抑制、リユース：再使用、リサイクル：再資源化）活動を推進するとともに、ごみの分別回収に引き続き取り組みます。また、3Rの推進を図るため、キーマンとなる人材の発掘を進めます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
ごみの排出量（可燃ごみ）	2,622 t	2,480 t	2,370 t

(5) 新エネルギーの導入と脱炭素社会の実現

地球温暖化対策に資するあらゆる「賢い選択」を促す国民運動「COOL CHOICE<sup>29</sup>」を推進するとともに普及啓発を図ります。

公共施設における省エネルギー製品の積極的な導入を進めるとともに、公共施設、民間住宅ともに新エネルギー設備、太陽光発電及び木質エネルギー等の再生可能エネルギー導入を促進し、自然と共生した脱炭素社会の実現と脱炭素先行地域の選定を目指します。

また、各小水力発電所の機能が将来にわたり十分に発揮できるよう、必要に応じて長寿命化対策等を講じるとともに、電気の地産地消のため、奥出雲電力(株)による事業所への電力供給の基盤整備を推進します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
新エネルギー設備導入促進事業数	146件	161件	177件
阿井発電所の年間発電量	720,737 kWh	755,000 kWh	767,000 kWh
二酸化炭素排出量（公共施設）	5,519 t-Co2	5,000 t-Co2	4,500 t-Co2
Jクレジット販売量	—	0 t-Co2	200 t-Co2

<sup>29</sup> COOL CHOICE：2030年度の温室効果ガスの排出量を2013年度比で26%削減するという目標達成のために、日本が世界に誇る省エネ・低炭素型の製品・サービス・行動など、温暖化対策に資するあらゆる「賢い選択」を促す国民運動。

みんなが協力  
できること

町民・地域

- ◆適切に持ち家を管理する
- ◆不良・危険家屋を発見したら情報を提供する
- ◆「賢い選択」を促す国民運動「COOL CHOICE」に取り組む
- ◆電気の地産地消に取り組む

# 持続可能なコミュニティがあるまち



## 施策を取り巻く社会情勢

高齢化と人口減少が著しい地方にとって、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる仕組みづくりは、重要な課題です。

また、これまで行われてきた住民同士のコミュニティ活動も減少傾向にあり、生活に必要なサービスの維持・確保が急務となっており、公民館を単位とする地域で住民主体の「小さな拠点づくり」の取組が求められています。

日本各地でも同様に、様々な人口減少対策に取り組まれており、地域ブランドの構築や定住対策における地域間競争が苛烈化しています。その中でも地域イメージを向上させ、「選ばれる」まちとなるための、シティプロモーションの取組が重要になっています。

## 奥出雲町の状況 (現状と課題)

◆地域を支える住民主体のまちづくりを進めるうえで、公民館を単位とする地域で住民自ら生活に必要なサービスを維持・確保しつつ、住民が互いに支え合う仕組みづくりが必要です。また、地域を支える人材の確保・育成を図り、伝統文化や習慣を受け継ぎ、守り続ける仕組みづくりが求められています。住み慣れた地域で安心して暮らし続けるための「自助、互助、共助、公助」のバランスの取れた持続可能な「まちづくり」が求められています。

◆本町には地域資源や自然環境など様々な魅力があることから、これらを総合的に分析しプロモーションを図ることで地域活性化につなげていく必要があります。シティプロモーションを通じて、町内外に住む人の本町に対するブランドイメージの構築を図り、「奥出雲町のファン」を増やすことにより、交流人口、関係人口の創出、移住定住のきっかけづくりを図る必要があります。

## 10年後のめざす姿

誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる住民主体のまち  
奥出雲流のブランドイメージを確立し、  
奥出雲町の魅力や強みが全国に認知されることにより、人々に選ばれ、応援されるまち

### まちづくりの目標

KGI (Key Goal Indicator/重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
地域活動における住民参加意向 (町民意識調査)	53.5%	60%	65%
地域活動に参加している町民の割合 (町民意識調査)(再掲)	46.8%	54%	60%

### 関連計画

—	—
---	---

## 取組

### (1) 小さな拠点づくりの推進

公民館を単位とする地区において、住民主体の「小さな拠点づくり」を推進し、住民の皆様の話し合いのもと、生活に必要なサービスを維持・確保し、地域資源を活用した賑わいを創出するなど、「自助、互助、共助、公助」のバランスの取れた持続可能な「まちづくり」に取り組みます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
小さな拠点づくりに取り組む地区(公民館単位)	7地区	9地区	9地区

### (2) 未来を担う人づくり

住民提案型のコミュニティ活動を支援し、地域を支える人材や地域づくり、コミュニティビジネスを実践する人材の確保・育成を図ります。

また、地域と学校が一体となって子どもたちを育むふさと教育など、多様な主体が参画する協働体制を構築するとともに、新たな担い手として関係人口の創出・拡大を図るため、地域と関われる機会や場をつくり、まちの未来を担う人づくりを進めます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
きらり輝く地域づくり事業採択団体数	87団体	162団体	237団体
未来へ輝け!まちづくりチャレンジ事業採択団体数(延べ)	—	3団体	7団体
まちづくり中間支援組織数	2団体	3団体	5団体

### (3) 価値を生み出すまちづくり

「小さな起業」や「コミュニティビジネス」を起こす人やチャレンジしたい人が集まり、みんなで学ぶ場を設けます。

また、地域住民と「まち」に関わる多様な人材が交流を図りながら、奥出雲町にしかない魅力に磨きをかけ、「ひと・もの・こと」を輝かせ、新しい価値を生み出せるまちづくりを目指します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
人材育成関連事業及び地域づくりセミナー等参加者数	1,360人	2,110人	2,860人
起業相談・支援件数(再掲)	23件	40件	50件

### (4) 奥出雲町のブランドイメージの構築

シティプロモーションとして発信すべき奥出雲町の魅力・強みを把握し、効果的な発信ができるようターゲットの類型別の整理分析を行います。

また、これらの魅力・強みであるブランドイメージを行政職員だけでなく、地域住民・事業者・団体からも発信できるよう共通認識を育てます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
奥出雲町のプロモーション研修会開催回数/年	0回	1回	1回

### (5) 官民協働の戦略的プロモーションの実施

町の魅力発信に効果的なSNS(Twitter、Facebook、Instagram等)を活用し、積極的に町をPRします。

また、インフルエンサー<sup>30</sup>のほか、情報発信力を持つ町民(ブログ、ホームページなどの運営者)や事業者による「奥出雲町応援サポーター」として関係を構築するとともに、SNS等により町民目線で情報を発信することができるシステムの構築を図ります。

また、町内で開催される様々なイベント、行事等を一元的に町内外へ発信する仕組みづくりを行い、さらにイベントの様子などを載せ、参加者等の拡大を図ります。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
町SNSフォロワー数	3,500件	5,000件	10,000件
奥出雲町応援サポーター制度登録者数	0人	25人	50人
町公式LINEフォロワー数(再掲)	—	1,200件	2,500件

<sup>30</sup> インフルエンサー：SNSでの情報発信によって世間に対して大きな影響を与える人物。

## みんなが協力できること

- 町民・地域
  - ◆お互いができることを担い、支え合う相互扶助の精神を持つ
  - ◆各地区における「小さな拠点づくり」により、地域づくりを実践する
  - ◆奥出雲町の良さを知り、奥出雲町のファンになる
  - ◆奥出雲町の魅力を全国に発信する
- 企業・団体
  - ◆自助、互助、共助、公助のバランスの取れた持続可能な「まちづくり」を支援する
  - ◆奥出雲町の魅力や・強みを積極的に情報発信する